

## 指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管課	保健福祉局障害福祉課
評価対象期間	平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日

## 1 指定概要

施設概要	名 称	北九州市立小池学園	施設類型	目的・機能
			I	— ⑦
	所 在 地	北九州市若松区大字小敷 5 8 3 - 1、2		
	設置目的	障害のある児童を入所させて、保護するとともに、社会的自立生活へ向けての援助、学習の指導、健康管理その他の支援を行うことにより障害児の生活及び福祉の向上に資することを目的としている。		
利用料金制		非利用料金制 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 一部利用料金制 ・ 完全利用料金制		
		インセンティブ制 有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	ペナルティ制 有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
指定管理者	名 称	社会福祉法人北九州市福祉事業団		
	所 在 地	北九州市八幡東区中央二丁目 1 番 1 号		
指定管理業務の内容		障害児施設（福祉型害児入所施設）の管理運営。		
指定期間		平成 2 4 年 4 月 1 日～平成 2 9 年 3 月 3 1 日		

## 2 評価結果

評価項目及び評価のポイント		配点	評価 レベル	得点
1 施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み		50		35
(1) 施設の設置目的の達成		25	4	20
① 計画に則って施設の管理運営（指定管理業務）が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか（目標を達成できたか）。				
② 施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。				
③ 利用者のサービス提供計画に基づき、適切に福祉サービスが実施されているか。				
<p><b>[評価の理由、要因・原因分析]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人との交わりが苦手な児童に対しては、限られたスペースの中で仕切りを設けて安心できる環境を整えたり、気持ち、雰囲気を変えるために年に数回、部屋替えを行うなど、児童一人ひとりの状態に応じた対応、より生活しやすい環境づくりなどに努めている。また、利用者の障害特性に応じて小グループでの活動を重視し、細やかな支援を行っている。</li> </ul>				
障害児入所支援	【参考】H22（更新前）	H23	H24	H25
定員	60名	60名	60名	60名
延利用者数	628名	634名	643名	636名
<ul style="list-style-type: none"> <li>また、短期入所や日帰りショート事業などの在宅の障害児の地域支援にも力を入れている。</li> </ul>				
短期入所	【参考】H22（更新前）	H23	H24	H25
延目標値	未設定	300件	300件	230件
延実績	101件	350件	197件	254件
日帰りショート	【参考】H22（更新前）	H23	H24	H25
延目標値	未設定	780件	780件	780件
延実績	733件	740件	793件	814件
<ul style="list-style-type: none"> <li>児童に対して、買い物時に、店員との会話や考える場を設けることで自発性を促し、人との関わり方やコミュニケーション等のソーシャルスキルの向上につながるよう努めている。</li> <li>広報紙を年3回（約300部/回）発行し、ホームページ（ブログ）の更新（年間22回）するなど、積極的に広報活動を実施している。</li> </ul>				

(2) 利用者の満足度			
① 利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。	25	3	15
② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。			
③ 利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。			
④ 利用者への情報提供が十分になされたか。			
⑤ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。			
<p><b>[評価の理由、要因・原因分析]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学園独自のサポートブック（パニックが起きた時等の対応マニュアル）を導入し、職員間の情報の共有化、支援の一貫性を図ることによりサービスの向上に努めている。</li> <li>・ 障害児施設において、保護者の関心が低い状況は全国的な傾向であると言われており、小池学園においても、学園及び児童の生活に対し、いかに保護者に関心を持ってもらうか苦慮している。そこで、学園や児童の日常生活に対する保護者の関心を高めてもらうため、親子レクリエーションや保護者懇談会を催すなど保護者と児童の係りについても考えながらサービス提供に努めている。さらに、親子バスハイク等、少人数で参加しやすい行事を考慮して行っている。</li> <li>・ 利用者からの苦情に対して適切に対応していくため、法人として苦情解決制度を設けており、また、施設としても利用者から出された意見や苦情等に対して適切に対応している。</li> <li>・ 食事について、直接利用者の声を聞き、食事の様子を確認したうえで、児童、成人の嗜好を考慮した別メニューを月平均10回程度実施するなど、利用者の満足をより高めるための食事提供に努めている。</li> <li>・ ボランティアを数多く受け入れ、日常生活の支援の充実や、イベント時の交流を図っている。（ボランティア受け入れ：延373名）</li> <li>・ アンケート調査の結果として、入所児は、措置児が半数を占め、措置以外でも児童との係りが希薄な保護者等もいるため「わからない」の回答が多い。しかし、老朽化した施設を「よくない」と答えた利用者はいたものの、要素ごとに見ると56%から71%、平均では64%となっている。</li> <li>・ 利用者や家族に対して重要事項説明書の交付を行い必要な情報の提供に努めた。</li> <li>・ 苦情に対しては、担当者・責任者を定めた体制を継続し、学園内に掲示したが苦情は0件であった。</li> </ul>			

<b>2 効率性の向上等に関する取組み</b>		<b>1 5</b>		<b>9</b>															
<b>(1) 経費の低減等</b>		1 5	3	9															
① 施設の管理運営（指定管理業務）に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組みがなされ、その効果があったか。																			
② 清掃、警備、設備の保守点検などの業務について指定管理者から再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。																			
③ 経費の効果的・効率的な執行がなされたか。																			
<b>[評価の理由、要因・原因分析]</b> ・ボランティアによる敷地内の草刈り時や親の会による施設内の清掃活動時に、職員も一緒に作業したり、日常的な施設の清掃等を職員で実施するなど経費削減に努めている。モニタリングの結果、清掃、設備の保守点検などの業務は適切に行われている。																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>【参考】H22 (更新前)</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>消費電力実績</td> <td>654, 168kwh</td> <td>537, 426kwh</td> <td>384, 480kwh</td> <td>387, 618kwh</td> </tr> <tr> <td>水道光熱費実績</td> <td>10, 539 千円</td> <td>13, 576 千円</td> <td>12, 747 千円</td> <td>12, 296 千円</td> </tr> </tbody> </table>					年度	【参考】H22 (更新前)	H23	H24	H25	消費電力実績	654, 168kwh	537, 426kwh	384, 480kwh	387, 618kwh	水道光熱費実績	10, 539 千円	13, 576 千円	12, 747 千円	12, 296 千円
年度	【参考】H22 (更新前)	H23	H24	H25															
消費電力実績	654, 168kwh	537, 426kwh	384, 480kwh	387, 618kwh															
水道光熱費実績	10, 539 千円	13, 576 千円	12, 747 千円	12, 296 千円															
<b>(2) 収入の増加</b>																			
① 収入を増加するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。																			
<b>[評価の理由、要因・原因分析]</b> ・提供するサービスは法定であり、報酬単価も国基準であるので、収入増加の工夫はできない。																			
<b>3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み</b>		<b>3 5</b>		<b>2 1</b>															
<b>(1) 施設の管理運営（指定管理業務）の実施状況</b>		1 5	3	9															
① 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であったか。																			
② 職員の資質・能力向上を図る取組みがなされたか（管理コストの水準、研修内容など）。																			
③ 地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。																			
<b>[評価の理由、要因・原因分析]</b> ・施設内において管理運営にあたる人員は適正に配置されており、施設の維持管理は適切に行われている。 ・長年培ってきた経験やノウハウを活かし、外来相談や、障害児保育を行っている近隣保育所への訪問指導等を行っている。また、関係団体や一般市民向けの発達障害																			

者支援セミナーを開催したり、専門学校、大学等で講演を行うなど、地域の関係機関への支援を行うとともに、連携の強化を図っている。

- ・自閉症に対する理解を深め、適切な支援方法を探るため「自閉症プロジェクト」として、自閉症の特性と個々人の状況に応じた支援のあり方、また、自閉症だけでなく、コミュニケーション支援が必要な障害児に対する支援などについて事例検討会を行っている。また、外部の実践セミナーや研修に職員を参加させ、支援技術の向上を図っている。
- ・複数の社会福祉施設を持つ法人の強みを生かし、スポーツセンター「アレアス」でのスポーツレクリエーションを行っているなど、他の障害者を含む交流の場を提供している。
- ・職場実習として、専門学校生や大学生を実習生として32名受け入れ、将来の社会福祉人材の育成に貢献している。
- ・小池まつり等の行事を通じて、地域住民やボランティアとの交流を積極的に行っている。

**(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など**

① 施設の利用者の個人情報保護のための対策が適切に実施されているか。	20	3	12
② 施設の利用者に対する人権が尊重され、また、身体的拘束及び虐待等の防止策が適切に実施されているか。			
③ 利用者が限定される施設の場合、利用者の選定が公平で適切に行われていたか。			
④ 施設の管理運営（指定管理業務）に係る収支の内容に不適切な点はないか。			
⑤ 日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。			
⑥ 防犯、防災対策などの危機管理体制が適切であったか。			
⑦ 衛生管理及び感染症などの危機管理体制が適切であったか。			
⑧ 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。			

**[評価の理由、要因・原因分析]**

- ・利用者の個人情報保護、衛生管理及び事故防止等について、マニュアルを整備し、配慮された施設運営が行われている。
- ・人権研修を年4回実施するとともに、利用者への対応チェックリストを作り、振り返りを行うなど、常に人権を尊重した支援に取り組んでいる。
- ・AEDを設置し、若松消防署島郷出張所の協力により、職員全員参加で普通救命講習を行い、職員の意識と技術向上に取り組んでいる。
- ・毎月避難訓練を実施しており、法定の点検も行われている。
- ・インフルエンザ等の感染症対策として、消毒液やうがい液、加湿器の設置による施設内の感染予防、利用者や家族等に対する注意喚起、利用者の健康管理を行い、利用者の感染防止に努めている。

## 【総合評価】

合計得点	65	評価ランク	C
<p><b>【評価の理由】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バスハイクなど親子で参加する行事を行うことで児童だけでなく、保護者にも関心を高めてもらおう工夫をしている。また、支援マニュアルやサポートブックを作成し、支援の一貫性を図っている。</li> <li>・特別支援学校、大学等での講演や、地域保育所等へ訪問指導を行うなど、施設支援の中で長年培ってきた経験やノウハウを活かし、積極的に関係団体への支援や連携強化に努めている。また、施設の安全管理や衛生管理等の施設の運営管理も適切に行われている。</li> </ul> <p><b>【今後の対応】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の管理運営を適切に行い、利用者へのサービス向上に努めるとともに、関係機関との積極的な交流活動により、障害児支援の地域拠点としての役割を期待する。</li> </ul>			

## 【北九州市指定管理者の評価に関する検討会議における意見】

入所者サービスに加え、短期入所や日帰りショート事業など在宅の障害児の支援にも力を入れ、利用者数が目標を上回っていることは評価できる。

今後は、アンケート内容を工夫して、より満足度が計れるように、より多くの意見を反映させる仕組みを強化するなど、入所者・利用者の視点に立った更なる取り組みを期待したい。

## 【評価レベル】

評価レベル	乗率		評価レベルの考え方
5	100%	良	要求水準を大幅に上回り、特に優れた管理運営がなされている
4	80%	↑	要求水準を上回り、優れた管理運営がなされている
3	60%	普 通	要求水準を満たしており、適正に管理運営がなされている
2	40%	↓	要求水準を下回る管理運営がなされている
1	20%		要求水準を大幅に下回る管理運営がなされている
0	0%	適切でない	不適切な管理運営がなされている

### 【総合評価】

- S : 総合評価の結果、特に優れていると認められる  
(合計得点が90点以上)
- A : 総合評価の結果、優れていると認められる  
(合計得点が80点以上90点未満)
- B : 総合評価の結果、やや優れていると認められる  
(合計得点が70点以上80点未満)
- C : 総合評価の結果、適正であると認められる  
(合計得点が60点以上70点未満)
- D : 総合評価の結果、努力が必要であると認められる  
(合計得点が50点以上60点未満)
- E : 総合評価の結果、かなりの努力が必要であると認められる  
(合計得点が50点未満)